学校･地域のよさを生かした教育課程の編成･実施について
～地域と共に育む教育の推進を目指して～

小城市立小中一貫校芦刈観瀾校
校長　藤田　浩巳

１　はじめに

本校は、平成26年度に「芦刈観瀾校」の名のもと、校舎一体型の小中一貫校として開校した。小中一貫教育を推進し11年目となる。小中一貫校開校当初から、地域と連携した活動が行われてきており、総合的な学習の時間等での「あしかり学」を中心として、全学年を通して地域ボランティアによる連携活動が継続して行われてきている。

また、令和４年度からコミュニティ・スクールが導入され、今年度で３年目の節目となる。このことにより、学校と地域がより信頼関係を深めるとともに、教育力を相互に高め、子どもたちの豊かな学びを支える体制が構築されてきている。

本校の学校教育目標は、「ふるさとを愛し、未来を拓く、心身ともに元気な子どもの育成」である。これからの芦刈の未来を支える子供たちを学校と地域が一体となり育んでいくことは学校の使命であると考えている。

２　主題設定の理由

（1）　児童・生徒の実態

令和６年度の学校の状況は、小学部220名、中学部103名、県費職員42名である。小学部においては、学年２学級が３学年あり、その他の学年では１学級で、特別支援学級は知的２学級、自・情３学級となっている。中学部は、学年１学級で、特別支援学級は知的１学級、自・情２学級の小規模校である。児童生徒は素朴で優しく、素直な態度で学年を問わずみんなで仲良く遊ぶ姿が見られる。行事や児童会・生徒会活動等でもそれぞれの発達段階に応じた取組と異学年交流に主体的に取り組んでいる。しかしながら、幼少期から変化の少ない集団で生活しているため、多様な考えに触れる機会が少ない。このことから、地域と連携した様々な取組を仕組むことで、人間的な成長を図ると共に地域のよさを実感し、地域を支える人材となって成長することができると考える。

（2）　地域の実情

芦刈町は、東は佐賀市、西は江北町・白石町、南は有明海に面しており、校区内の世帯数は、1,925世帯、人口は5,036人で年々減少している。さらに、令和３年４月に過疎地域の指定を受けたことにより、小城市では令和３年度から５か年計画で、「小城市過疎地域持続的発展計画」を策定し、地域社会の形成及び地域資源等を活用した地域活力のさらなる向上を目指す取組が進められている。さらに、小城市では、学校と地域の連携を推進する「学校・地域夢つなぎ応援事業」が展開され、地域住民が学校支援ボランティア（夢つなぎボランティア）として、学校教育活動の支援を行うなど、独自の教育に地域一帯となって取り組んできている。小規模校のメリットを活かし、保護者・地域と連携した教育活動の更なる推進を図るとともに、学校を中心としたコミュニティの活性化に取り組むことは、今後の芦刈町のまちづくりを担う重要な取組となると考える。

（3） 地域と連携した取組の必要性

令和３年度に過疎指定を受けたことにより、芦刈町では今後のまちづくりをどのように行っていくかが喫緊の課題となっている。このことを受け、令和４年度から「芦刈のまちづくり組織に関する検討会」が開催され（計３回）、町の実情や課題をテーマにワークショップ形式で話し合いがなされ、本校中学部生徒もこの会議に参加した。そして、今年度、検討準備会を経て、新たに「あしかりまちづくり協議会」が組織されることとなっている。

協議会については後述するが、地域とともに成長する子供たちが、子供の視点からまちづくりに参画していくことは、地域を誇りに思う心や地域コミュニティへの自己効力感の醸成、キャリア教育の視点からも重要なことであると考える。子供たちが「当事者」として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていくことが、子供たちが幸せに安心して暮らせるまち、子供たちが「志」を果たしていける未来を創り上げることにつながると考える。このことは、文部科学省が示す「地域とともにある学校」の姿とも合致するものである。

３ 実践の概要

（1） 地域連携活動の推進

本校は、小中一貫校となり11年目となるが、これまで小中一貫教育として９年間の学びをどのように進めていくべきかを全職員で考え、小中一貫教育の充実を軸に校内研究に取り組んできている。これまでの研究から、小中一貫教育を小中の教職員が一体的に進めるため、３つのプロジェクト部会を柱として取り組んでいる。このプロジェクト部会は、小中それぞれの学部の全ての職員がいずれかの部会に所属し、校種の枠を越えて活動を行っている。３つのプロジェクトのうち、学びプロジェクトに「地域連携活動」がある。

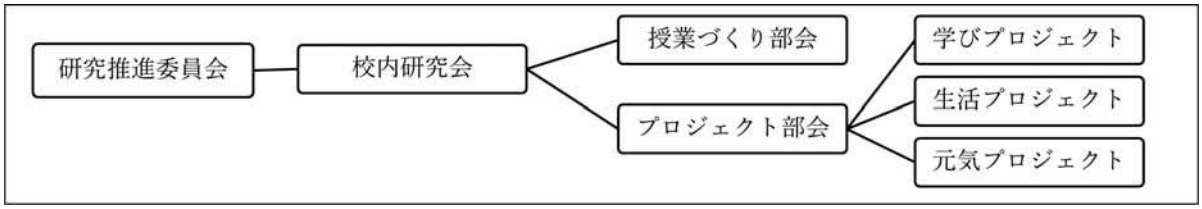


図１ 研究組織

「地域連携活動」は、地域ボランティアを活用した活動である。この地域ボランティアを活用した活動のねらいは、以下のとおりである。

① 児童・生徒が地域ボランティアの方々とふれあう機会をもつことで、自分たちが住む町に子供たちのために活動してくださる地域の方々がいることを知り、感謝する気持ちや自分の住む町を誇りに思う気持ちを育てること

② 地域のことをよく知る方々から、芦刈町の産業、文化、歴史、自然環境等、詳しく話を聞くことで、地域について正しく理解し、故郷を大切に思い、よりよい町にしたいという願いを持つ子供を育てること

である。コミュニティ・スクールである本校は、学校と地域を結ぶ地域連携コーディネーターを配置しており、地域ボランティア活動の調整等は、地域連携コーディネーターである「地域連携推進員」が主に担当している。地域連携活動は、「夢つなぎボランティア活動」として、全学年で計画・実践している。

図２　芦刈観瀾校コミュニティ・スクールイメージ図

R6年度　夢つなぎボランティア支援計画(年間)　【芦刈観欄校　2024.4 現在】

期日・期間	項　目	学　年	内　容	希望支援者数
年間小学部計6回	読み聞かせ	1～6年生	本の読み聞かせ	毎回5名以上
9月	干潟体験	1年	体験補助	5～6名
1月	昔あそび	1年	昔あそびの体験補助	10～15名程度
9月	芦刈音頭	2年	芦刈音頭の指導	※芦刈音頭保存会 6～8名
5月中旬	夏野菜作り	3年	土づくり/苗植え	コスモス会　5名程度
9月中旬まで	秋野菜作り	3年	土づくり/種植え	コスモス会　5名程度
2月	沖ノ島詣りのお話	3年	講演、体験	太鼓浮立同好会　数名 2時間続きで
	太鼓浮立体験	3年		
7月中旬	海苔巻き体験	4年	海苔巻き作り指導	8名程度
6月上～中旬	有明海について知ろう	4年	海苔や有明海にすむ生き物について調べる学習の支援	数名
6月、2月　計4回	調理実習 サラダ(6月) ご飯とみそ汁(2月)	5年	調理安全指導補助	毎回3～9名
5月、6月　計4回	裁縫学習	5年	裁縫安全指導補助	毎回3～9名
10月、11月 計10回	ミシン実習 (エプロン製作)	5年	裁縫安全指導補助	毎回3～9名
6月・12月　計4回	調理実習 野菜炒め(6月) ベーコンポテト等(12月)	6年	調理安全指導補助	毎回6～9名
9月～10月 計8回	ミシン実習	6年	ミシン縫い安全指導補助	毎回5～6名
6月　計4回	家庭科　ミシン実習 エコバック製作	7年	安全指導補助	毎回6～8名
1月　計2回	立志式支援	8年	立志式習字支援	毎回数名

図３　夢つなぎボランティア支援計画

① 夢つなぎボランティア実践事例

○事例１「夏野菜作り」（３年生）R6.5.8【コスモス会、むつ姫会　11名】

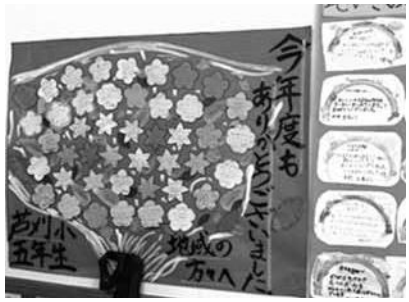
○事例２「海苔収穫・海苔巻き体験」（４年生）R6.6.27【有明漁協青年部・女性部　18名】

○事例３「ティッシュケースの製作（家庭科）」（７年生）R6.6.19【芦刈町女性部13名】

② 地域開放棟の活用

地域ボランティアの方々が学校で活動する際の控え室や打ち合わせ場所として、地域開放棟を設置している。地域開放棟は、活動の記録や活動した子供たちの感想やお礼を掲示し、子供たちと地域の方々とのつながりを意識した空間となっている。

地域開放棟内　掲示①



地域開放棟内　掲示②

(2)　「あしかり学」の取組

「あしかり学」とは、主に総合的な学習の時間の中に位置付けており、小学部１・２年生の生活科も含め、９年間を通して「地域の生活や文化について理解と愛着を持ち、よりよい地域を作るために主体的に取り組んでいく態度と能力を育てるとともに、自己の生き方を考えることができる子供を育てること」を目的として取り組んでいる。そして、郷土理解をきっかけに幅広く郷土に関連した学習を行い、子供たちの視野を広げることをねらいとしている。

	前期ブロック		中期ブロック	後期ブロック
	（１・２年生）生活科	（３・４年生）	（５・６・７年生）	（８・９年生）
目標	○芦刈の生活や自然、地域の出来事を知り、関わることができる。身近な人々とふれ合う活動を行うことで芦刈の人達に支えられていることを知り、自分の生活を振り返ることができる。	○芦刈の生活や文化、産業に関心をもち、進んで学ぶことにより、芦刈のよさや魅力に気づき、愛着をもって生活をしていこうとする。	○芦刈の歴史、伝統、文化、産業などの特色やよさ、問題点に気づき、芦刈町の一員として、地域の生活や文化を生かそうとする。	○芦刈の歴史、伝統、文化、産業などの特色や問題点を通して、郷土の未来や、自己の生き方を考えることができるようにする。

図４　生活科・総合的な学習の時間のブロックごとの系列

○　事例１「大豆づくり体験学習」（５年生）R6.6.26【地域ボランティア（ＪＡ芦刈支所）4名】

・内容　芦刈町の大豆「フクユタカ」を使った種まき、収穫、調理実習を行い、芦刈町・佐賀県の農業を考える。芦刈町で農業に携わる人々の思いに触れ、農業や郷土への興味・関心を高める。

○　事例２「芦刈町の未来をえがこう」（６年生）R6.9.18

【地域ボランティア（あしかりまちづくり協議会設立準備会）２名】

・内容　芦刈町の未来、人口減の理由・人口を増やしていくためにはどうしたらよいかを考え今後の町の活性化に向けた提言を行う。

○　事例３「芦刈学～芦刈干拓の歴史～」（７年生）R6.9.20【地域ボランティア１名他】

・内容　芦刈町の干拓の歴史、地名の由来、偉人、戦中・戦後の暮らしなど、地域在住の郷土史家を招き、ふるさと芦刈のことについて学ぶ。また、有明水産振興センターへ出向き有明海の生物や海苔養殖など地域の水産業について学ぶ。

(3)　「あしかりまちづくり協議会」との連携

本協議会は、令和３年４月に芦刈町が過疎指定をうけたことから、今後の「未来を支える子供たちのために」という思いから今年度、設立されることとなっている。今年度からの活動となるが、今後、本協議会と学校とで連携した取組を進めていくこととなる。

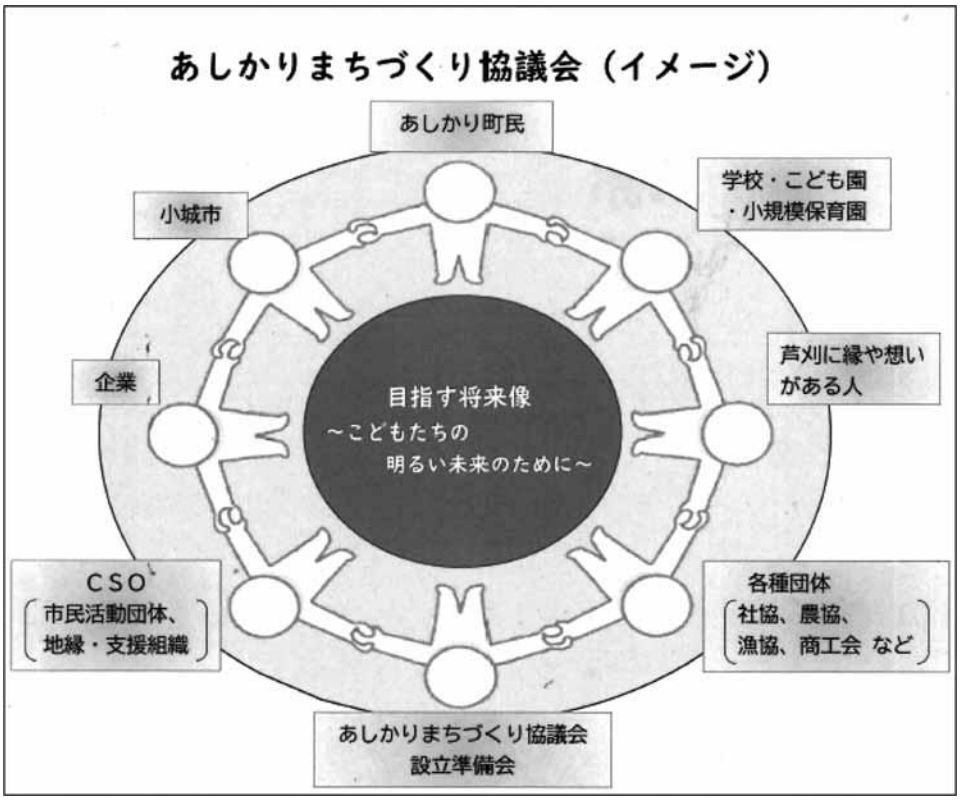


図５　あしかりまちづくり協議会イメージ図

①　「あしかりまちづくり協議会」設立準備会勉強会への参加（令和５年度）

「あしかりまちづくり協議会」をどのように組織していくか、子供たちが楽しく過ごせるような町づくりをするにはどうしたらよいか等を話し合うため、令和５年度に勉強会が開催された。中学生も勉強会へ参加し、地域での生活の不便さや未来のあしかり町に望む展望などを意見交換した。中学生が地域のまちづくりへ意見を述べ、まちづくりを構成する人材として自覚すること、自分も地域のまちづくりに参画する意識を持つことは今後の地域を担う人材育成としても効果的であった。

○　中学生の意見

・町を豊かにする活動には積極的に参加したい。

・地域のボランティアに参加する。

・芦刈のよいところ、珍しいところ等をＰＲする。

・子供たちが遊べる場所があれば良い。

・公園などの集まる場所がほしい。など

②　「あしかりまちづくりこどもクラブ（仮称）」の立ち上げ（予定）

○　こどもクラブの設置目的

・子供たちの未来のため、主体となる子供たちの視点や目線及び考えを大事に、把握し、具現化する。

・成果を可視化する取組を行い、子供たちの「自分でも出来る」意識を向上させ、まちづくりに自信と興味を持つ機会とする。

・町民総働で知恵を出し合う機会を創出し、地域とのつながりや接点を持ち続け、故郷を思う気持ちを養う。

○　設置と活動スケジュール

・令和６年 ７月　児童・生徒への説明（全校集会）

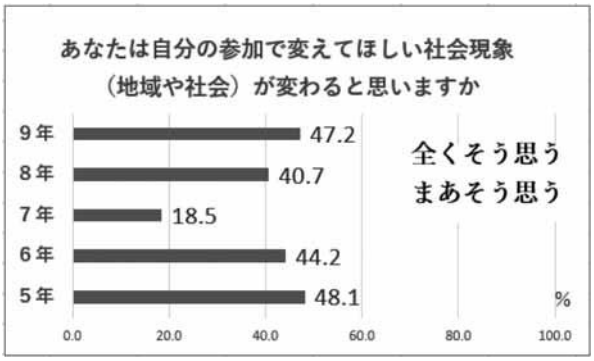
・令和６年10月　取組体制・活動内容検討

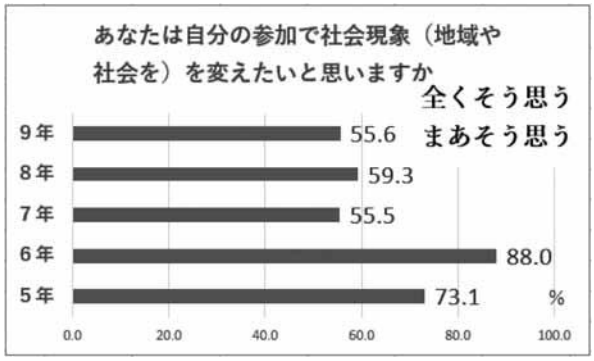
上記の活動を通して、今後の策定予定である「まちづくりプラン」に提言し、みんなで創るまちづくりプランとなるよう進めていくこととなる。子供たち自身が考える地域の未来の姿を意識し、地域を担うひとりとして様々な場面で活動していく素地となってくれることを期待している。

４　成果と課題

「地域連携活動」や「あしかり学」にこれまで取り組んできているが、これまでの取組にただ前年踏襲で取り組むのではなく、一つ一つの取組の目的をきちんと理解し、地域の産業、文化、歴史等に関わる人々の思いに触れることで、「自分に今何が出来るのか」を考えることができるように振り返り活動をしっかり行うことにも全校で取り組んでいる。

本校５年生以上を対象に、学校内外における子供の生活状況に関する調査（Ｒ３高校生の社会参加に関する意識調査を参考に作成）結果によると、本校児童生徒は、「自分の参加で変えてほしい社会現象（地域や社会）が変わると思いますか」また「変えたいと思いますか」の質問に対して以下の結果であった。





我が国の高校生が答えた「自分の参加で変えてほしい社会現象が変わると思いますか」の質問における肯定的な回答結果が35.4%だったことからすると、本校児童生徒はより肯定的に捉えていると考えられる。また、「自分の参加で社会現象（地域や社会）を変えたい」と答えている児童生徒がどの学年においても半数を超えている。経年での比較検証とはなっていないが、自分も地域へ参画していこうとする態度は醸成されてきていると考える。

このことから、地域と連携した様々な取組を仕組むことで、人間的な成長を図ると共に地域のよさを実感し、地域を支える人材となって成長することができているのではないかと考える。

今後の課題としては、これまで取り組んできている「地域連携活動」や「あしかり学」の取組が本来の意義を失い、形式的な取組にならないよう研究組織においても、毎年度、目的等を確実に押さえて取り組んでいく必要がある。また、これから連携を進めていくこととなる「あしかりまちづくり協議会」との取組が、まちづくりを担う地域の一員として子供たちが参画できるような取組を仕組んでいくことも大切であると考える。

参考文献
・中学校学習指導要領解説（平成29年度告示）　総則編　文部科学省
・中学校学習指導要領解説（平成29年度告示）　総合的な学習の時間編　文部科学省
・高校生の社会参加に関する意識調査報告書（令和3年6月）　国立青少年教育振興機構
・「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ　～コミュニティ・スクールを核とした学校と地域の連携・協働～　文部科学省初等中等教育局参事官 木村 直人氏講演資料